

自己評価報告書

令和2年度 泰明小学校 自己評価報告書

学校名：中央区立泰明小学校

所在地：中央区銀座5-1-13

校長名：浮津 健史

児童数 324

学級数 12

教員数 27

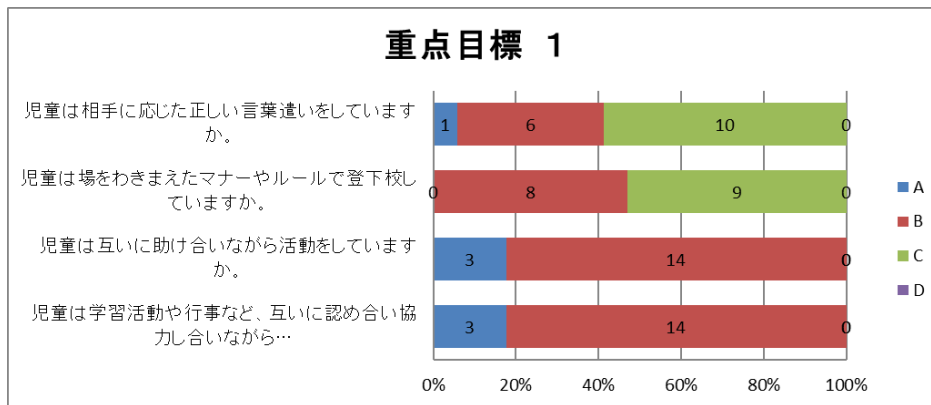
職員数 7

1 重点目標の達成状況及び取組状況

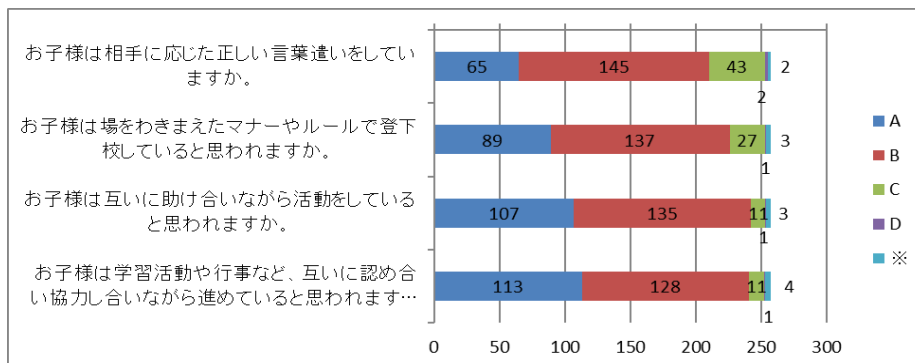
重点目標1 ○思いやりの心の育成

評価項目 ○言語環境の整備、規範意識、豊かな人間関係と社会性

【教員】



【保護者】



今年度は、新型コロナウイルス感染症予防による「新しい学校生活様式」に基づき、様々なものが中止、あるいは形を変えての実施となったため、特に「交流」や「密になる」活動は行うことができなかった。そのことから、学校評価の質問内容も、一部削除しての調査となった。また、「互いに助け合い」「互いに認め合い」という内容の質問については、交流の難しさから、評価点は低くなるものと想定して

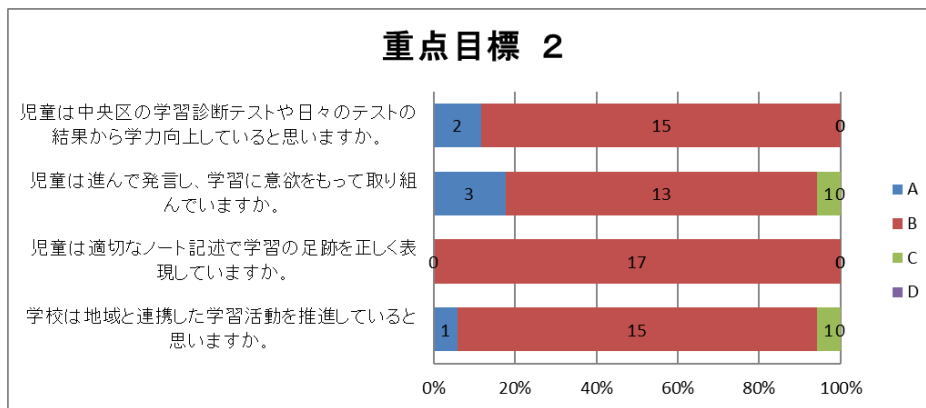
評価を行った。その上で、今回の調査結果を分析する。

まず、重点目標1についてであるが、保護者の評価は、昨年以上に高評価（A 評価が4項目とも20～30ポイントの伸び）となり、学校の取り組みや児童の成長について、一定の満足を得ていることが分析できる。反して、教員の「児童の正しい言葉遣い」への評価が、昨年に比べ低くなった。相手意識の低い、心ない言葉やゲーム等で覚えた乱暴な言葉が散見されたようだ。研究教科体育科を中心とした「心の交流」「言葉の交流」の授業が、コロナ禍で思うように図れなかったことが一因と考えられる。また、一方で、保護者の自由記述内には、教員の児童に対する言葉がけについての厳しい指摘もあった。教師自身が、美しい日本語の発信者・相手意識の高い言葉がけの見本として、自分自身をふり返り、正しく発信することで、児童のよりよい育成を目指す。

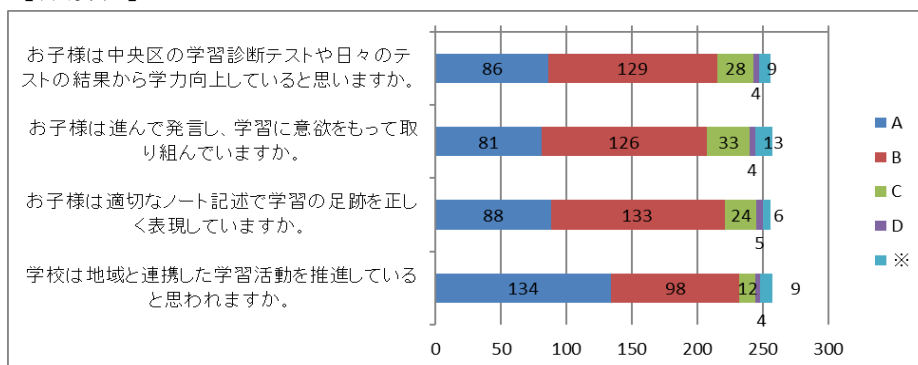
重点目標2 ○確かな学力の保障と学習意欲の喚起

評価項目 ○基礎・基本の定着、学習意欲の向上、地域との連携による学習活動の推進

【教員】



【保護者】



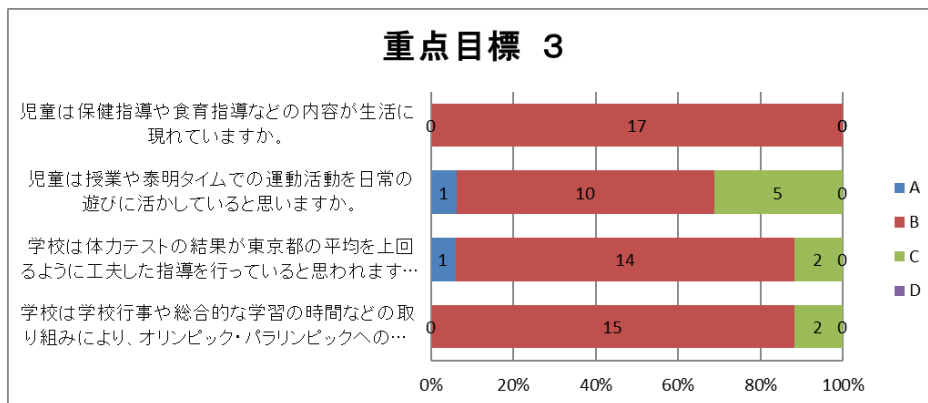
重点目標2 についての評価は、教員の「学校は地域と連携した学習活動を推進していると思います

か」の項目以外は例年以上の高評価であった。特に、保護者評価は、全項目とも A 評価が 20～30 ポイント向上しており、学校の取り組みに対し、一層の高評価を頂けた。中でも、学力向上については、昨年度「わからない」と答えた保護者が 101 ポイントいたが、今年は 9 ポイントと激減し、AB 評価欄に集中した。これは、ホームページ・各種便り等を使って、学校の取組を細かく報告できたことで「交流が難しい現状にあって、学校が工夫して児童の学習を補償したこと」をご理解頂けてた結果、高評価に繋がったと分析した。また、教員側は、「コロナ禍」にあって、思うような交流が図れない現実に満足せず、別の形で児童により機会を与えたいという思いを強くもっていることもわかる結果となった。

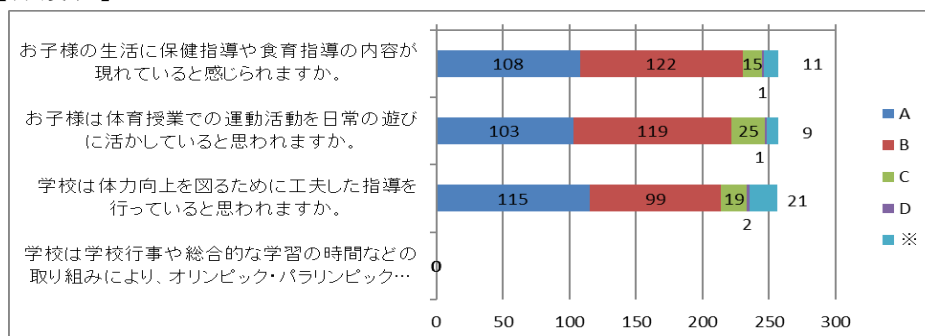
重点目標 3 ○児童の健康づくりの推進

評価項目 ○健康教育の推進、運動環境の整備、体育指導の充実、オリンピック・パラリンピック教育の推進

【教員】



【保護者】



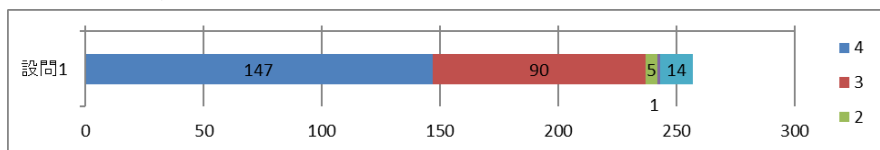
まず第 4 項目「学校は学校行事や総合的な学習の時間などの取組により、オリンピック・パラリン

ピックへの関心を高め、内容を深めていると思うか」の質問項目は、運動会の中止（学年別体育学習発表会に変更）や、学校公開の中止により、全校的取組が保護者側には伝わりにくいと判断し、質問項目から削除した。（教員側は、他学年の取組も共有しているため、評価できると判断したため実施している。）全項目とも教員・保護者とも昨年以上の高評価となった。中でも突出しているのは、3項目目の「体力向上のための工夫」に対する保護者評価で、昨年よりA評価が50ポイントも向上している。「体育学習発表会」で公開した普段の体育的活動の様子を評価頂けた結果と考える。但し、実際の体力テスト結果は、2月中盤以降に出るので、それを正しく分析して今後に生かす必要がある。

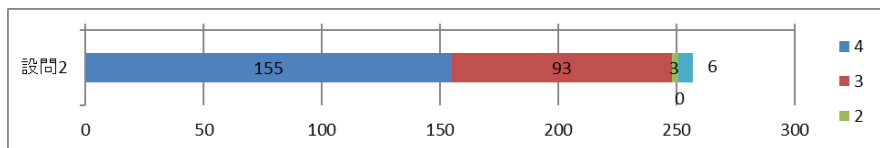
## 2 重点目標以外の自己評価における達成状況及び達成のための取組状況

### 保護者アンケートの結果（個別質問）

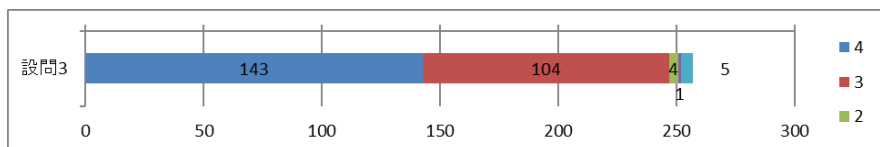
①学校は学習内容がわかりやすく楽しい授業をしている。



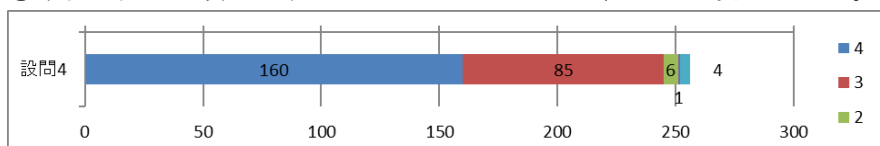
②学校は児童に基礎学力が身に付くように教えている。



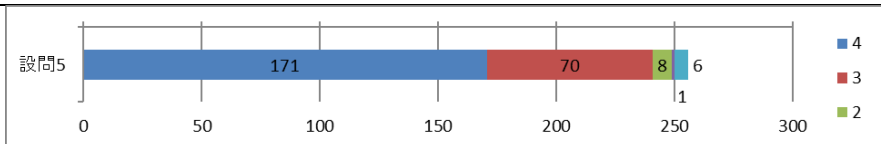
③学校は通知表等を通して児童の学力を適切に評価している。



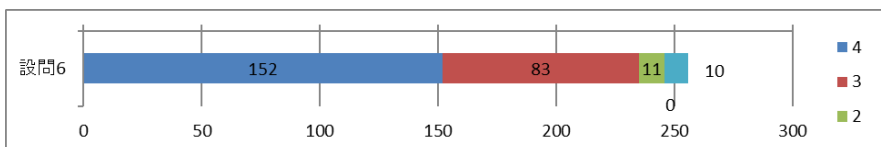
④学校は児童の努力を認めたり励ましたりして、温かく接している。



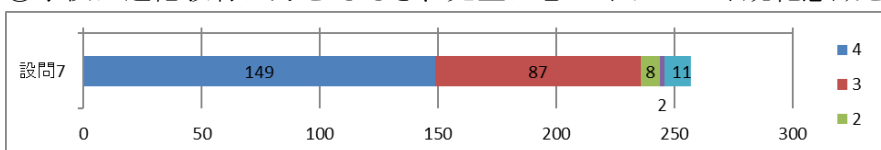
⑤児童は明るく生き生きと学校生活を送っている。



⑥学校は児童の健康・体力の増進に努めている。



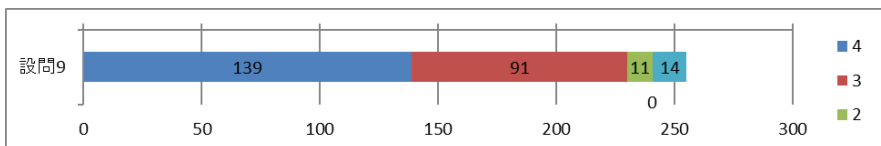
⑦学校は道徳教育に力をそそぎ、児童に思いやりの心や規範意識を育てている。



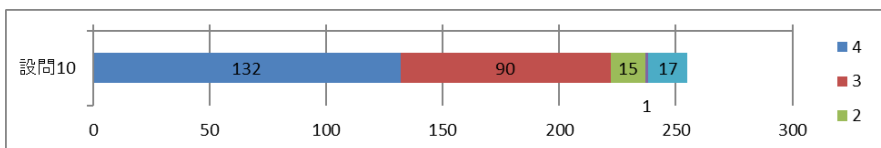
⑧学校はボランティア活動や清掃活動などの様々な奉仕活動を行っている。

新型コロナ対応による中止等の影響で通常の活動ができていないのため、今年度は調査対象外とした。

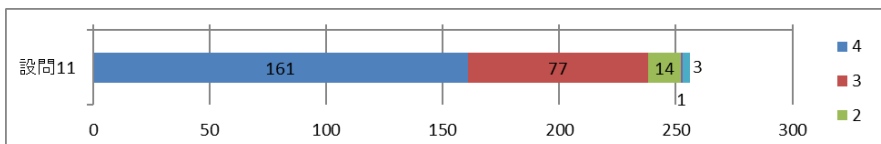
⑨学校は教育活動において人権を尊重する姿勢で子どもの指導にあたっている。



⑩学校は児童の問題や悩み、トラブルなどを見逃さずに相談にのったり指導したりしている。



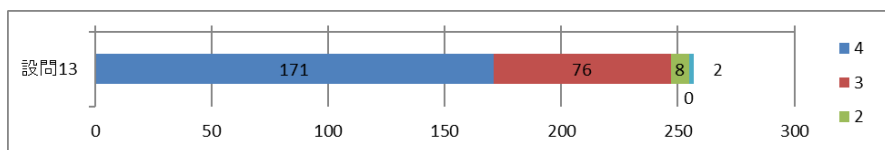
⑪学校は保護者にとって連絡や相談がしやすく、適切に対応している。



⑫学校は保護者や地域の人が積極的に教育活動にかかわれるようにしている。

新型コロナ対応による中止等の影響で通常の活動ができていないのため、今年度は調査対象外とした。

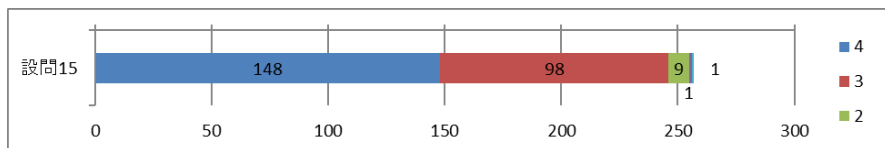
⑬学校は児童の安全確保や安全対策に様々な配慮をしている。



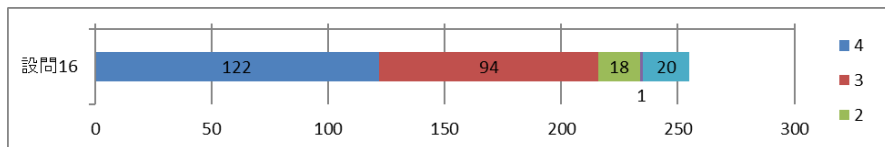
⑭学校は行事や学校公開などを通して児童の学習の様子や生活がわかるようにしている。

新型コロナ対応による中止等の影響で通常の活動ができていないのため、今年度は調査対象外とした。

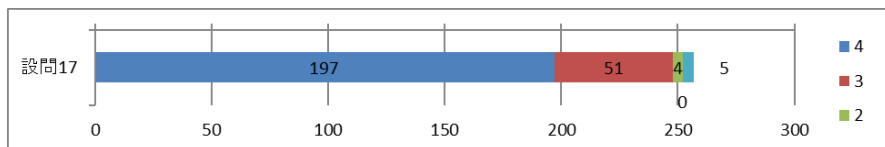
⑮学校は保護者に出す文章や連絡等は、わかりやすくても内容も適切である。



⑯学校はコンピュータや図書室を十分活用している。



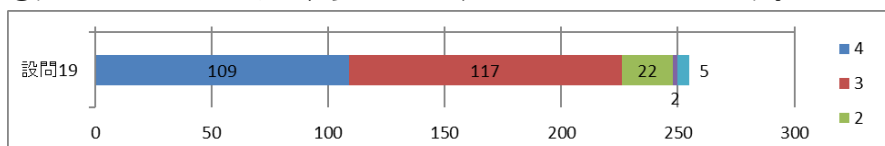
⑰学校は地域を生かした教育活動や行事がある。



⑱保護者は学校の教育活動に積極的にかかわっている。

新型コロナ対応による中止等の影響で通常の活動ができていないのため、今年度は調査対象外とした。

⑲児童はマナーを守り、安全な通学を心がけていると思う。



今回は、新型コロナ対応による中止等の影響で「調査対象外」とした設問もあったが、それ以外は、全てA評価が平均30ポイント以上の伸びを見せる結果となった。特に、設問⑬36ポイント⑭38ポイント⑮60ポイント⑯34ポイント⑰35ポイントのA評価の増加は、厳しい現状の中での本校の取組を、ホームページ・安全安心メール等で繰り返し発信したことが、保護者の理解の促進に繋がった結果と捉える。中

でも設問⑬「学校は児童の安全確保や安全対策に様々な配慮をしている」が、大きな伸びを見せたことは、新型コロナウイルス感染症拡大防止への取組や、緊急事態宣言下での本校独自の公共交通機関を使用している登下校への対応、更に安全安心メールでの細かな発信等で、一切の混乱を見なかったことなどが評価を得たものかと考える。

また、毎年の課題であった設問⑯も評価が大きく伸びた要因として、タブレット端末を活用した様々な教育活動の発信等をご理解頂けた結果と考える。ただし、「わからない」の回答も20ポイントあり、発信の仕方や授業での更なる活用等をより一層模索したい。

### 3 今後の改善方策

#### ○思いやりの心の育成について

「言葉遣い」の課題については、道徳教育や研究教科である体育科を中心に、学校生活の中で考え実践しながら身に付けられるよう取り組んでいく。教室に「言われて嬉しい言葉」「言われたらいやな言葉」等を掲示したり、児童のよいノートや作品を取り上げて示したり等、児童自身が「いつでも・どこでも・だれにでも」を意識できるように具体的な視覚化を行う等、昨年に引き続き、正しい言葉遣いとあいさつ運動を継続する。

また、教師自身の言葉についても、率先して「よき実践者」としての模範を示す。更に、いじめを絶対に許さない意識の醸成を充実させるとともに、公共心や社会規範を守る態度、善悪の判断、自主・自立の態度を養っていく。保護者とも連携し、「子どもだから」ではなく、「人として」という考え方で、育成を図る。

#### ○確かな学力の一層の定着と学習意欲の喚起

全体的に高い学力を示す本校において、より一層の習熟を図ると共に、学習に困難さを抱える児童との二分化に対処するため、ICT教材の活用や各種支援員による支援、算数科における習熟度別少人数指導等をさらに推進し、すべての教科において基礎・基本のさらなる定着及び思考力・判断力・表現力等を高める指導法の工夫改善を目指す。また、教員の一層の指導力向上を目指し、OJTや研究・修養の機会を生かし、授業力の向上に努める。

#### ○児童の健康づくりの推進

「ウィズ・コロナ」を観点に据え、「新しい学校の生活様式」下でも実施可能な体力向上のための活動を模索する。ひとりのできること・間隔をあけても交流しながらできること等、多くの実践を情報共有する。体力テスト結果を分析し、課題と対応策を検討、今後の指導に生かす。可能であれば、アスリートによる出前授業や泰明マラソン等での意識の喚起を行う。また、泰明タイムやマイスクールスポーツである「なわとび」の取組を充実させるなど日常的な体力向上の取組を推進する。